

目次

I そそりたつ障壁 1

資源涸渇と環境汚染、核の脅威、地球環境とヒトの遺伝子の悪化、
人間性不在の社会、これらの解決なくして人類に未来はあるか

II 停止社会と人類の課題 48

経済成長を停止して精神文化の発展を期すことは可能か。そんなこ
とで私たちが直面している課題を解決できるのか

III 自然の構造 67

自然との共存のために、自然とは何であるかを見直すと、そこに無

機物、生物、人間という三つの系列の不思議な累層関係を発見する

IV 系列を比較する……………105

運動性の著しく異なる自然界の三つの系列、ここに見る運動性の違いこそ、すべての問題の客観的原因だ

V ソフトマテリアルパス……………129

タンパク質と太陽エネルギーに基づく文明。そこではすべてが加速された自然の物質循環となり、地球のエントロピー収支も崩れない。これが自然のあり方に沿った新しい科学技術の方向だ

VI 自然の歴史……………159

ビッグバン宇宙論の限界を理解するならば、そこに無限の過去から未来へと変化し発展してやまない自然の姿が現われる

VII 人類の発展……………193

絶え間なく運動性を高めてきた自然の歴史は、知的生命の発展に根拠を与えている。そのような人類がいまなすべきことは何か

VIII 新しい理念……………215

自然の発展性の中に介入してくる偶然性は、歴史が創造であることに自然科学的根拠を与え、人類の目的意識の役割を明かす

IX 現代自然学とまとめ……………228

現代の自然学は、懸命に思慮深く生きる道を求める人間の願いを、その出発点としなければならない

あとがき 241
索引 1